

新たなプラン案についてのご提案やご意見がありました。

第4回ワークショップでのご提案やオープンハウスでのご意見をもとにして新たにA'案を検討の対象に加えます。今後、評価の結果やワークショップでのさらなる検討を踏まえ、再配置プラン案の絞り込みを行っていきます。

A'案 利便性の高いエリアに機能を集めて地域の拠点をつくるプラン

- ・西浦小学校に、西浦中学校・西浦公民館を複合化し、児童クラブ機能を配置します。
- ・にしうら児童館は当面現地で維持し、適切な建替え時期に西浦保育園に移転・複合化します。

拠点となる施設が丘の上下（現小学校敷地と現中学校敷地）に分離していると連携が難しい。A案の一体感を捨てたいので丘の下に2つの拠点を作ってはどうか。

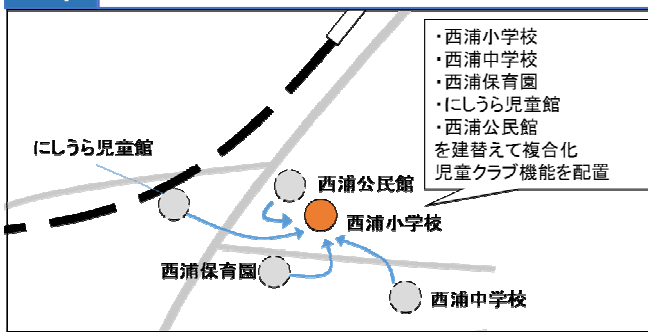
2つの施設が隣接することで、イベント時などに施設間で駐車場の融通や活動の連携がしやすくなる。

A案から保育園を別にすれば、園児はのびのび過ごせるし、中学生は落ち着いて学習ができる。

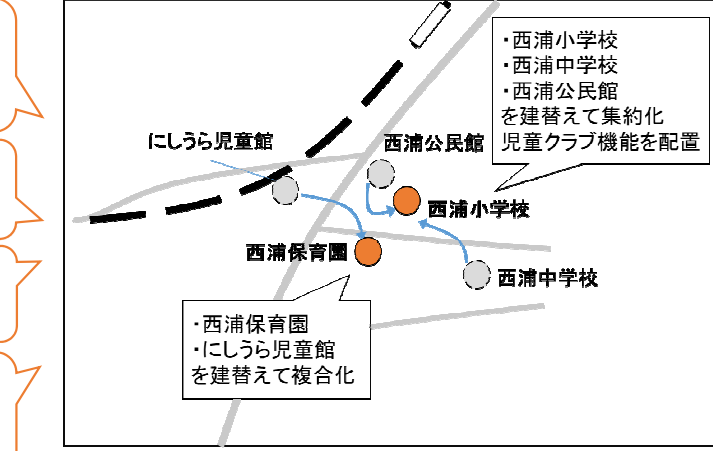
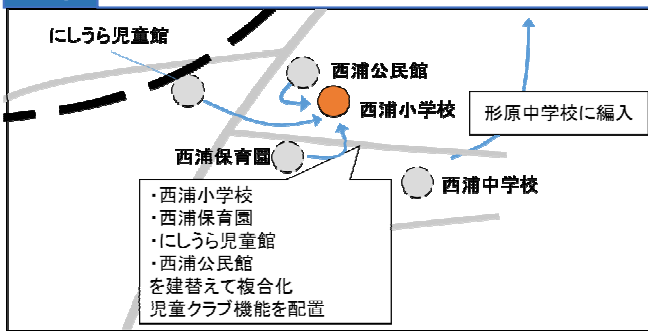
A案は、「機能を集約しすぎていること」や「保育園児と中学生が同じ敷地にいること」が不安だ。
(オープンハウスご意見より)

その他の再配置プラン案の概要は、以下のとおりです。

A案 施設を集中させて地域の拠点をつくるプラン

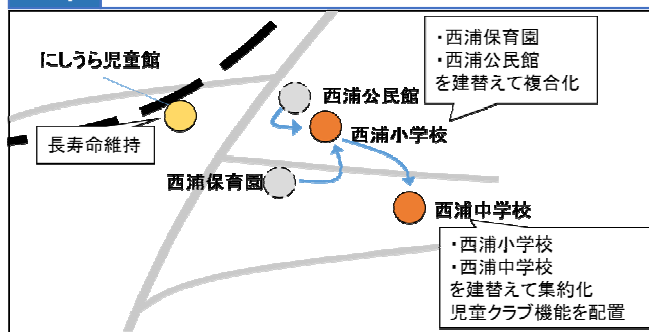


C案 西浦中学校を形原中学校に編入するプラン

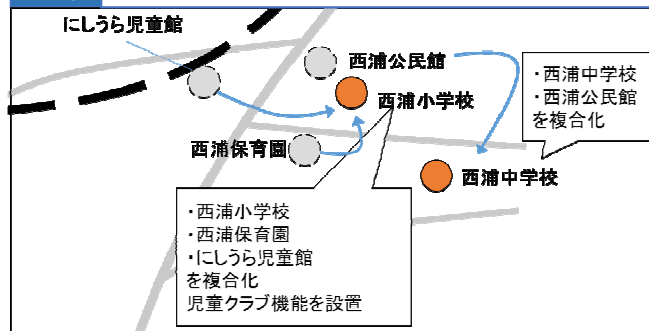


● 複合化・集約化 ● 存続 ● 廃止・解体・跡地利用

B案 多世代の交流拠点と教育の拠点をつくるプラン



D案 学校を中心とした2つの拠点ををつくるプラン



お知らせ

地区の皆様のご意見を募集しています。

- ワークショップで検討されている内容について
- 西浦地区のまちづくりや公共施設について

次回ワークショップは、

2月25日（日）午後1時30分から
にしうら児童館 プレイルーム で開催します。

ご意見をお聞かせくださる方や、傍聴をご希望の方は、右のお問い合わせ先までご連絡ください。

お問い合わせ先

蒲郡市総務部財務課 公共施設マネジメント担当
〒443-8601 蒲郡市旭町17番1号
TEL 0533-66-1158/FAX 0533-66-1183
E-mail zaimu@city.gamagori.lg.jp

ワークショップでのご意見や資料等は、市ホームページに掲載しています。

<http://www.city.gamagori.lg.jp/unit/zaimu/machizukuri-kokyoshisetsu.html>

西浦地区 かわら版 第4号

西浦地区 まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

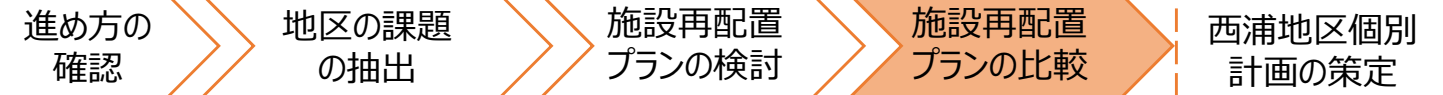
蒲郡市では、今後の人口減少・少子高齢化が進む社会情勢を見据え、公共施設の維持更新費用で将来に大きな負担を残さないため、「身の丈にあった」施設保有量に適正化していく取り組みを進めています。

そこで今年度、西浦地区にある公共施設（小学校・中学校・公民館・保育園・児童館）の将来について、地区にお住まいの皆様と協働で考えていく機会として、「西浦地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催しています。1月21日（日）に西浦公民館にて開催された第4回ワークショップの内容をお知らせします。

また、ワークショップで話し合われている内容等についてのご意見を募集しています。（最終ページの「お知らせ」をご覧ください。）

検討の進め方

蒲郡市は、このワークショップをはじめ、広く地区の皆様からいただいたご意見を反映させた、西浦地区の公共施設の配置や活用方法を示す「地区個別計画」を策定します。下図のように段階的に検討を進めます。第4回ワークショップでは、再配置プラン案を比較するための評価について話し合いました。



オープンハウス(パネル展示型説明会)を開催しました！

- 1/10 @にしうら児童館
 - 1/10 @西浦保育園
 - 1/12 @名鉄蒲郡線 西浦駅
- どの再配置プラン案がよいと思うかなどのご意見をいただきました。

1/21開催
第4回ワークショップ
複数の再配置プランを評価の視点に沿って比較検討しました。

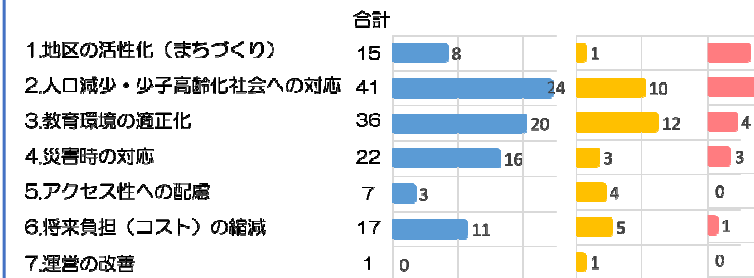


2/25開催予定
第5回ワークショップ
これまでのワークショップでの議論を踏まえ、再配置プランの絞り込みをします。

オープンハウス（パネル展示型説明会）の結果概要

西浦地区の皆様ワークショップの様子をお伝えし、ご意見をお聴きする機会としてオープンハウスを開催しました。いただいたご意見を紹介します。（アンケート世代別色分け：■ 10～30代 ■ 40～50代 ■ 60代以上）

Q.公共施設の再配置を考える際、あなたにとって重要な視点はどれですか？



- ・現在、地区の行事はお年寄りが動いてくれるが、そこを若者が盛り上げてくれるともっと良い。
- ・若者が多いまち、高齢者が元気なまちを作りたい。
- ・これから大きくなる子のために住みやすい地域であってほしい。
- ・子どもに多くの集団の中での体験をさせたい。
- ・海が近く、災害が不安。
- ・将来、子どもたちに負担を残したくない。

Q.4つの再配置プラン案の中でどのプランがよいと思いますか？

- ・【A】地域のまとまりができる。
- ・【A】保育園から中学校までつながりのある子育ての環境がよい。
- ・【B】小中学生が少ないので複合化して活気が出るとうい。
- ・【B】勉強をする世代と遊び中心の世代は分けるべきだと思う。
- ・【C】子どもの数が少なく、高校進学時が不安…。
- ・【D】災害があったときに場所の確保が大事。



詳しくは市HPをご覧ください。

再配置プラン案の評価検証

第4回ワークショップでは再配置プランを比較するため、これまでのご意見をもとに事務局が作成した評価一覧表(案)を用いて検討を行いました。評価項目や評価方法について修正点や配慮すべき点などのご意見をいただきました。(各再配置プラン案の概要は最終ページに掲載しています。)

評価一覧表 (案)

視点	内容	評価項目	A案	B案	C案	D案
①地区の活性化(まちづくり)	●様々な世代が利用できる、イベントにも活用できる地域の活動拠点・交流拠点が整備されているか。	ア 地区全体を盛り上げるイベントや学校を活用した活動を実施しやすくなったか。(公民館と学校の関係性で評価)	◎	○	◎	◎
		イ 一体感のある地域の拠点はできているか。(公民館と他施設との関係で評価)	◎	○	◎	○
		ウ 祭りや神社の行事に若者が参加しやすくなったか。	○	○	△	○
		エ 西浦の地域性が保たれているか。	○	○	△	○
②人口減少・少子高齢化社会への対応	●高齢者のコミュニティの場は確保されているか。 ●様々な世代、地域の方が交流できる場は確保されているか。 ●子ども同士の交流や、地域で子どもを見守る環境など子育てしやすい環境が整備されているか。	オ 高齢者の生きがいづくりや活躍の機会は増えているか。(公民館と小学校の関係性で評価)	◎	○	◎	○
		カ 地区住民同士や異なる世代間の交流機会は生まれやすくなったか。(施設同士の関係性で評価)	◎	◎	◎	◎
		キ 親にとって送迎の利便性が向上しているか。(児童クラブ機能と保育園の位置関係で評価)	◎	○	◎	◎
		ク 地域で子どもを日常的に見守る環境が整ったか。(公民館と小学校・保育園の関係性で評価)	◎	◎	◎	○
③教育環境の適正化	●児童にとって使いやすい児童クラブが整備されているか。 ●教育環境の向上が期待される複合化、施設配置となっているか(選択や競争、多くの人と接する機会があるか)。	ケ 子ども同士の交流機会が増えたか。(学校・保育園・児童館の関係性で評価)	◎	◎	◎	◎
		コ 小学生にとって児童クラブが利用しやすくなったか。(児童クラブ機能と小学校の位置関係で評価)	◎	◎	◎	◎
		サ 中学生にとって部活動の選択肢が増えたか。	○	○	◎	○
		シ 小中学生が切磋琢磨したり互いに見習う機会が増えたか。(学校規模で評価)	◎	◎	◎	○
		ス 小学校と中学校が連携しやすいか。(小学校と中学校の関係性で評価)	◎	◎	○	○
		セ 学校での異年齢との交流機会が増えたか。	◎	◎	○	○
		ソ 学校と地区住民との交流機会が増えたか。(学校と公民館の関係性で評価)	◎	○	◎	◎
		タ 運動会など学校行事が盛り上がりやすいか。	◎	◎	○	○
		チ 中学生が学習に集中しやすくなったか。	△	○	○	○
		ツ 学校のグラウンドや体育館を児童生徒が授業や課外活動で円滑に利用できるか。	△	○	○	○
④災害時の対応	●避難所の数・機能・位置は適切か。 ●災害時に安全に子どもを引き取ることができるか。	テ 避難所収容人数は充足しているか。	○	○	○	○
		ト 津波時の避難所は確保されているか。	○	○	○	○
		ナ 災害時に親が子どもを安全に引き取りやすくなったか。(小学校・中学校・保育園の位置関係で評価)	◎	◎	○	◎
⑤アクセス性への配慮	●各所から通いやすい施設配置となっているか。特に車を持たない方や児童生徒の通学に配慮されているか。 ●駐車スペースは十分確保されているか。	ニ 小学生が徒歩で通学しやすくなったか。(小学校の周辺人口と地形的な立地で評価)	○	△	○	○
		ヌ 中学生の通学距離は短くなったか。(中学校の立地で評価)	○	○	△	○
		ネ 通学の安全性が高まったか。(学校周辺の環境で評価)	◎	△	△	○
		ノ 保育園に駐車場は十分に確保されるか。	△	◎	○	○
		ハ 公民館は高齢者が徒歩で利用しやすくなったか。(公民館の周辺人口と地形的な立地で評価)	○	○	○	△
⑥将来負担(コスト)の縮減	●維持更新費用・運営費用は縮減されているか。 ●跡地は有効に活用されているか。	ヒ 公民館に駐車場は十分に確保されるか。	△	◎	○	○
		ＬＣＣ(ライフサイクルコスト)試算における50年間の縮減額(単位:百万円)	4,179	3,560	7,660	2,877

視点①～⑤については、評価項目ごとに3段階(◎:現状より向上 ○:現状維持もしくは一長一短 △:現状より低下)で採点しました。視点⑥については、LCC(ライフサイクルコスト)の試算における50年間の縮減額にもとづき評価しました。

以下は、ワークショップでいただいたご意見の抜粋です。

①地区の活性化(まちづくり)

- 各施設間の関係性だけでなく、広い意味で地域活性化を考えて各案の評価をしたい。
- 【イ】C案は小学校や保育園の複合化により一体感が高まる要素があるが、中学校の形原地区への移転により地域の一体感が下がるのではないかと。
- 【イ】一体感という言葉が抽象的でわかりにくい。
- 【ウ】公共施設の再配置が住民同士や世代間の交流機会に影響を与える可能性もあるが、一方で影響はないだろうという声もある。
- 【エ】再配置が西浦の地域性に影響を与えるとは思えない。

②人口減少・少子高齢化社会への対応

- 【オ】生きがいづくりは個人の問題であり、公共施設の再配置とはあまり関係がないと思う。
- 【オ】D案は公民館が高台に移り、高齢者が行きづらくなる。高齢者の生きがいづくりにつながらない可能性が高い。
- 【カ】C案は複合化により世代間交流が高まるが、中学校が移転することで世代間交流が減る側面もある。
- 【キ】怪我や病気で中学生の送迎を行う可能性もあるので、C案は中学校の移転により利便性が下がる。
- 【キ】複合化により送迎時に混みあうことも考えられる。
- 【キ】児童クラブと保育園が現小学校敷地と現中学校敷地で離れていても、評価に差をつけるほど距離があるとは思えない。
- 【キ】小学校が中学校敷地に移ると送迎の負担は大きくなると思う。
- 【キ】どこに住んでいるかによって利便性の差が大きい。どの地区を基準にするかで評価が変わるのではないかと。
- 【ク】「子どもを見守る環境」の対象に中学生も含めるべき。中学生が地区から離れるC案は目が行き届かなくなる。
- 【ク】【ケ】複合化により子ども同士の交流の増加、子どもの見守りの環境の向上が見込まれるが、C案では中学校の移転により中学生が子どもに目を配ったり、交流する機会が減る。

③教育環境の適正化

- 教育現場の定性的・定量的なデータ分析を行ったり、教員や生徒などの意見を聞くべきである。
- 生徒数が多ければ教育環境が良くなるとは言えない。
- 小学校と中学校が一緒にあることにより交流が生まれる。
- 【サ】生徒数が増えれば部活の選択肢は増えるかもしれないが、無くなる部活もあるかもしれない。
- 【サ】部活動のあり方そのものが変わってくる可能性もある。
- 【シ】C案では中学生は生徒数の増加により切磋琢磨し合えるかもしれないが、小学生は中学生と接触して成長する機会が減ってしまう。
- 【ス】C案では小、中学校が離れ、連携のしやすさは低下すると思う。

- 【ソ】子どもと住民の交流機会ならば、保育園と公民館の複合も評価するべきだ。
- 【ソ】「教育」の視点なので、学校と地区住民の交流だけで評価すればよいと思う。
- 【ソ】C案では中学校の移転により現状より学校と地区住民の交流は低下するのではないかと。
- 【ソ】小学校と公民館の複合によって交流の機会が増えるとはいえない。
- 【ソ】D案は公民館が高台に移り、高齢者が行きづらくなることで、学校と地区住民の交流が低下すると思う。
- 【タ】C案は中学校の移転により地区内では中学の運動会が開催されず、地区としての盛り上がり欠けてしまう。
- 【チ】施設配置の工夫や防音対策により、園児の声には対応できるだろう。
- 【チ】保育園が学習の妨げになるかどうかは、現場の先生に聞いてみないと分からない。
- 【チ】中学生が保育園で職業体験が行えるなどメリットがある。一方で、部活動を行うときに園児が危険になるデメリットもある。
- 【ツ】小学校敷地に施設が集中するA案は、現在よりも制約を受けると思われるので「△」は妥当だと思う。

④災害時の対応

- 避難所収容人数や浸水予想地域など、防災に対する判断が甘いと思う。
- 防犯面の評価項目を入れるべきではないかと。
- 【テ】C案の収容人数が他より少ないのに、他と同じ評価結果になるのは疑問だ。
- 【テ】公共施設再編と災害時対応は直結していないので、全て「○」のままよい。
- 【ト】現状、住まいから指定の避難所まで遠いので、再編により改善できないかと。
- 【ナ】C案は中学が形原に移転するのだから「△」ではないかと。

⑤アクセス性への配慮

- 【ネ】集団登校やスクールバスにより、遠方への通学も安全性は確保できるのではないかと。
- 【ノ】【ヒ】駐車場は広ければよいのではなく、イベント時に特設などで対応できるならば、平常時中心に確保すべき台数を決めて良いのではないかと。
- 【ハ】公民館は現状でも利用しにくいだが、それを基準に再編によって変化がないもの(現状維持)を「○」と評価することに疑問がある。

⑥将来負担(コスト)の縮減

- 子ども達の将来の負担を考えるとコストも重要だと思う。
- コストは重要だが、そればかり評価せずに、地域コミュニティや学校教育のことをもっと重視したい。